

<あとがき>

昨年は広島、長崎の被爆から 70 年にあたる節目の年であり、5 年に一度の NPT 再検討会議の開催年でもあることから、核軍縮を進めるうえで、大きな進展を期待した人も多かったはずである。しかし、残念なことに NPT 再検討会議は最終文書を採択することができずに終わり、核軍縮に関し、具体的な成果を目にすることはできなかった。そして、長崎でも多くの人々の落胆の声を耳にすることになってしまったのである。

我々 RECNA としても、大きな悔しさと無力感に襲われる結果となった。しかし、同時に、今 71 年目のチャレンジが始まっていると言わなくてはならない。

確かに昨年度、眼に見える成果には乏しかったかもしれない。それでも、ジュネーブでは核軍縮の法的枠組みを検討するための国連公開作業部会の作業が進められている。また、人道アプローチを求める人々の声に後押しされるように、核兵器廃絶へ向けての法的枠組みの成立を求める国も少なくない。

確かに核兵器廃絶の実現へ向けて克服しなければならない障害は大きい。しかし、それを少しずつでも克服しようとする人々の動きもまた大きい。その中で RECNA が今後、どのような貢献ができるのか、常に自らに問い続けてゆかなければならない。

広瀬 訓(RECNA 副センター長)

長崎大学核兵器廃絶研究センター年報2015

2016 年 3 月 31 日発行

発行所 長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)
〒852-8521 長崎市文教町 1-14
電話: 095-819-2164 FAX: 095-819-2165
E-Mail : recna_staff@ml.nagasaki-u.ac.jp
<http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

印刷所 株式会社インテックス
〒850-0046 長崎市幸町 6-3
電話 : 095-826-2200